

2021年6月果実概況

全国的に気温が高く、北・東・西日本では、降水量が少なく日照時間が多かった。

西日本・四国・九州地方は梅雨入りが平年より早かったが、西日本では6月に入ると降水量は少なく、関東以北は中旬と平年に比べ1週間遅く入梅した。

果実全体の入荷量は前年比100%、価格501円(前年比95%)とほぼ前年並みで推移した。6月の販売中心となるすいか類は気温高と空梅雨から引合いは強く、荷動きは平年に比べて良好。おうとうは山形産の4月の低温被害から少なかった前年よりさらに下回る入荷から、前年より前進傾向にある桃・すももの出荷が始まり、増量が緩やかだったことから荷動きは鈍くなかった。

ハウスみかんは入荷103%、価格1,078円(99%)。佐賀・愛知産は上中旬までだらだら出荷が続き、下旬からはギフト需要のため増量体制になると引合いは強まり、単価も前年並みに推移する。

りんご類は入荷152%、価格356円(60%)。「有袋ふじ」「ジョナゴールド」のほか、黄色系品種「王林」「シナノゴールド」ともに潤沢な貯蔵量があり、価格は平年でも2割近く安かった。

びわは入荷90%、価格1,477円(100%)。長崎産が平年に比べ出荷ペースが早く、6月上旬で販売終了。6月主力の香川産は害虫被害により前年比2割弱減少。台風被害で少なかった前年に比べ愛媛・千葉産は数量回復したものの6月の販売量は前年に比べ若干少ない。

おうとうは入荷61%、価格2,545円(117%)。山形産は4月の降霜被害で市場流通量は激減。山梨産も開花が早く5月に前進出荷したため、大幅に減少した。秋田産の出荷も始まり、前年より増えたものの、おうとうの総量は少なく、単価高となる。

もも類は入荷139%、価格848円(99%)。和歌山産は3年前の台風被害から回復鈍いこと、生育早く、極早生品種が小玉だったことから2割減。主力山梨産はハウス・露地ともに生育早く、前年比増。「ちよひめ」「日川白鳳」への展開は例年より早く、おうとうが少なかったことで荷動きは良かった。

すもも類は入荷147%、価格760円(94%)。和歌山産は生育進度早く、不作だった前年より多い。山梨産の前年は長雨・日照不足から数量減となったが、今年は開花時期の天候も良く、豊作傾向。

ぶどう類は入荷95%、価格2,192円(107%)。「デラウェア」「ピオーネ」「巨峰」は、各産地「シャインマスカット」への転作により作付面積減。「デラウェア」は島根産の生育前進、山形産の降霜被害など前年比減。岡山産「シャインマスカット」「アレキサンドリア」は曇天の影響で生育が若干遅れる。

メロン類は入荷102%、価格474円(101%)。前年よりも本年産はさらに前進出荷で推移しているものの、前年並み。主力は「アンデス・クインシーメロン」で茨城産は大玉傾向だが、他産地も肥大良好。下旬より「タカミメロン」の販売も始まり、単価は前年並みとなった。

すいか類は入荷 93%、価格 252 円(92%)。熊本・千葉産ともに出荷進度は早く、熊本産大玉は 6 月上旬から終盤を迎え、だらだら出荷が中旬まで続いた。千葉・鳥取産が下旬より出荷ピーク迎え、梅雨入り後も天候・気温高に恵まれ荷動きは良く、店頭での販売は好調。

国産マンゴーは入荷 103%、価格 3,608 円(113%)。宮崎産の出荷ペースは平年以上で、6 月上中旬にピークを迎えた。緊急事態宣言下の影響もあり、化粧箱と PK の価格は変わらないものの、平年以上の価格で推移した。沖縄産が中旬より入荷開始。